事例No.	1205
公表年度	R2
団体の属性	一般市
団体名	徳島県鳴門市

事例区分	公営企業

タグ	・市場事業 ・公共施設活用 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	民営化

事例内容・タイトル

鳴門市公設地方卸売市場の民営化について

出典

雑誌「公営企業」先進事例紹介(令和２年7月号)

先進事例紹介



鳴門市公設地方卸売市場の民営化について

徳島県鳴門市農林水産課

1．はじめに

鳴門市は徳島県の東北端、鳴門海峡の西側に位置し、淡路島を跨ぎ、京阪神地域からの四国側の玄関口となっております。当市の北部は瀬戸内海国立公園に指定され、北に播磨灘、東に紀伊水道をのぞみ、鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮でその名を知られた景勝地です。

また、海も山もある豊かな自然環境から、消費者に知名度の高い「なると金時（さつまいも）」や「れんこん」「大根」「梨」「らっきょう」「鳴門わかめ」「鳴門鯛」など、数多くの地域特産物を有しており、その供給基地として体制づくりを進めています。

2．民営化に至る背景や経過

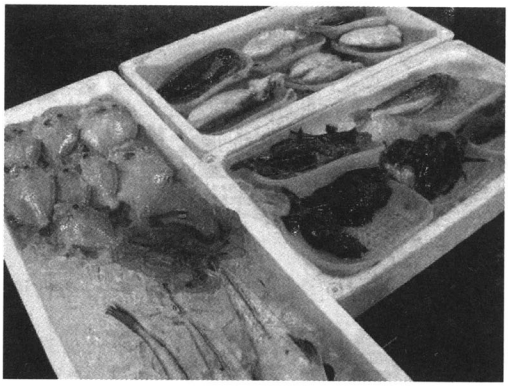
鳴門市公設地方卸売市場（以下、「公設市場」という。）は、本市及び周辺市町への生鮮食料の安定供給を目的に昭和50年に開設しました。

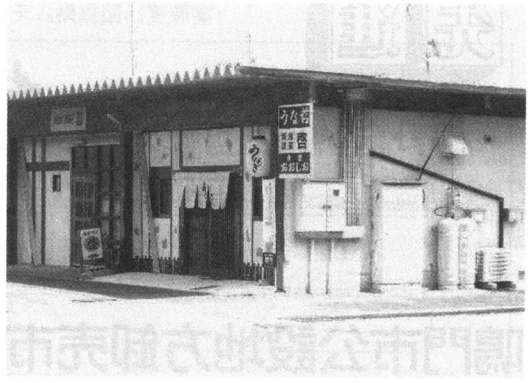
当初、公設市場は青果部及び水産部による運

鳴門地方卸売市場







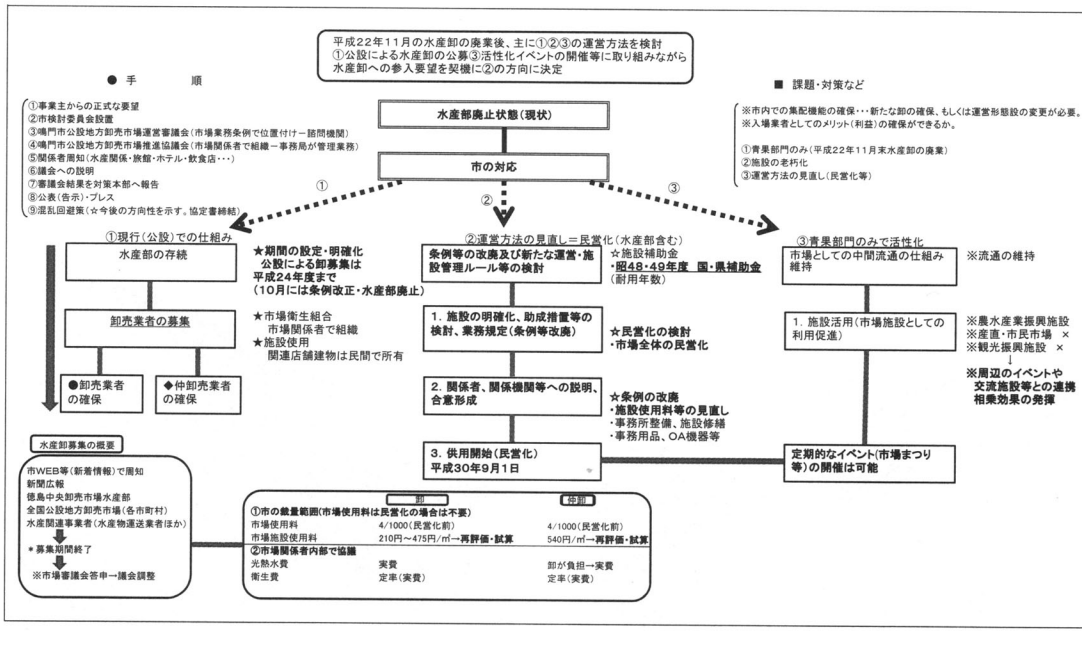


営を行っておりましたが、流通形態の多様化による取扱量の減少など、卸売市場を取り巻く情勢が大きく変化し、平成20年頃から大幅な取扱高の減少がみられるようになり、平成22年11月に水産卸の廃業を受け、平成24年10月には水産部を廃止し、以後青果部のみの運営を続けてきました。

こうした状況の中、平成28年９月に、香川県の民間企業から水産卸売業務の参入への申し出があり、以後、水産卸売業務の再開に向けて、鳴門市・徳島県・漁業関係者・市場関係者等で民営化も視野に入れた市場活性化についての協議を行ってきました。

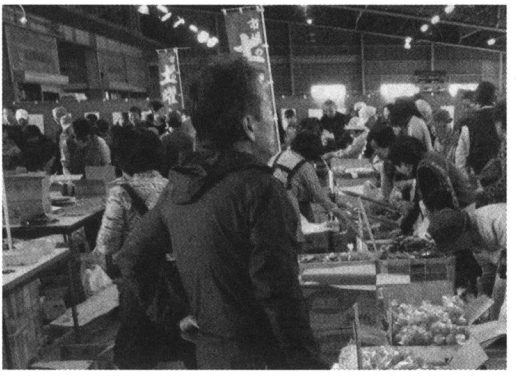
新たに参入を希望する水産事業者は、「民設民営の卸売市場に移行することを条件に水産卸売業務を行いたい」という意向であったことから、市場関係者に対し、水産卸売業務再開に係る説明を行うとともに、卸売市場の民営化についても並行して検討を行うこととなりました。

鳴門市公設地方卸売市場での水産卸新設開設のスキーム



鳴門地方卸売市場　市場まつりの様子（平成30年10月）







まず、市場内部関係者で組織する「市場推進協議会」を数回にわたり開催し、民営化後の運営計画の説明を行いました。

（会議で出された主な意見）

・水産部の運営について
・青果部との相乗効果について
・市場全体としての活性化策
・施設利用のあり方及び使用料金について
・衛生処理問題等

様々な角度からの課題について協議を行い、その対応等についての承認を得た上で民営化に向けた手続き等について、地方卸売市場開設の許可権者である徳島県との協議を進めました。

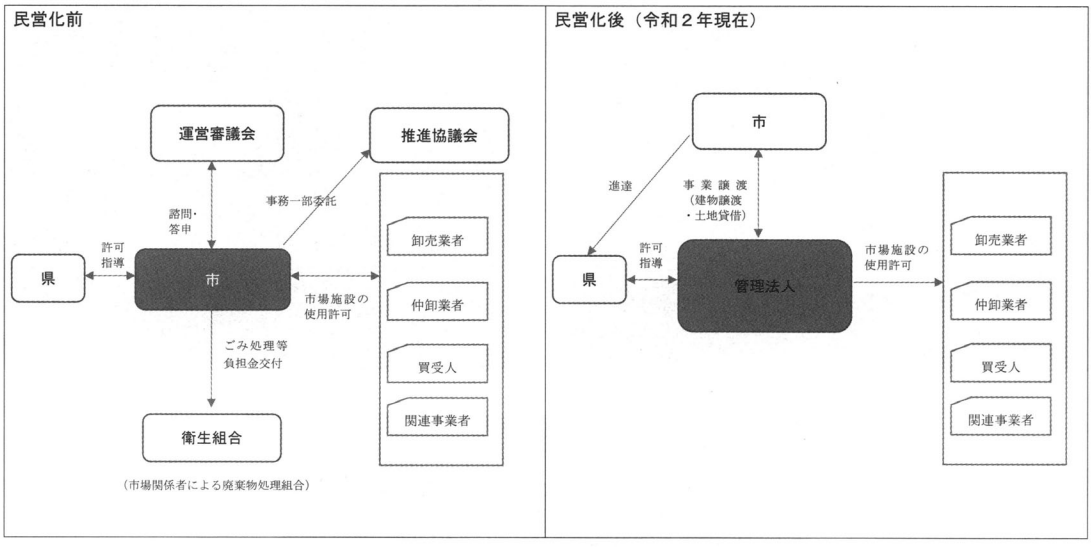
平成29年９月には、市場の管理・運営に関する重要事項を審議する諮問機関である「市場運営審議会」に対し、卸売市場の民営化について諮問を行った結果、「民営の地方卸売市場の設置に努めるべき」との答申が出されました。

その後、平成30年６月に民営化後の卸売市場の設置者となる「一般社団法人　鳴門地方卸売市場（以下、管理法人という。）」が設立され、事業方針や収支計画書の素案の提出を受け、協議を重ねながら諸手続に着手し、鳴門市議会における条例改廃等議案の審議を経て、同年９月に民営化が実現しました。

３．民営化の概要

市に代わり卸売市場を管理することとなる管理法人については、本市の市場や生産・流通の特徴、課題等を熟知するとともに、関連店舗や

卸売市場の運営形態



生産者団体との連携や円滑な市場運営が重要であるため、青果部・水産部の卸売業者の構成員を役員とする法人となりました。

市と管理法人は、平成30年７月に事業譲渡に関する基本合意書を締結し、管理法人の要望に応じて事前に老朽化が進んでいる箇所の修繕を行ったうえで、卸売市場施設の建物及びその他付属物は無償譲渡することとなりました。

また、土地については平成30年９月１日からの５年間、無償貸付とすることとしました。

これらの準備を経た上で、平成30年９月１日より「鳴門地方卸売市場」として、民営による地方卸売市場がスタートし、10月４日からは約６年ぶりに水産部も活動を再開することとなりました。

地方卸売市場が持つ「地域の食料供給拠点」という公益性を鑑み、市としても引き続き、支援を行っていきたいと考えています。

４．おわりに

「鳴門地方卸売市場」は、民営化からまもなく２年を迎えようとしています。市場近郊においては、鳴門・大塚スポーツパークもあり、Ｊリーグ徳島ヴォルティスのホームゲームが開催されており、プロスポーツや様々なイベントと連携した活性化が期待できる立地条件を備えており、さらなる市場の活性化への可能性が拡がるものと思われます。

民営化後、活性化に向けた取組として、定期的な朝市の開催を開始し、現在では月間のべ700人ほどに来場していただいております。また、ウェブサイトを作成し、ブログにて情報発信を行うなど、市場をより身近に感じてもらえるように努めています。サービス店舗内の空き店舗につきましても、うなぎ料理屋やちりめん加工業者に入場していただき、場内外で利用されている状況となっており、様々な取組が進められています。

今後も、多様なニーズに対応できる運営体制を構築し、本市の流通の要として、引き続き安全で安心な生鮮食料品等を供給する役割を果たし、地域の活性化に繋がるさらなる発展を期待しているところです。